

宮崎県拠点の
Webサイトは
こちらから



宮崎県拠点だより

事例紹介
ファイル #11

持続可能な農業に向かって! 地域の農地を守りたい!!

日向市の黒木敬二さんは、JAみやざき日向和牛部会会長を務める和牛繁殖経営の農家です。

兼業農家であった父の単身赴任を機に、県外から帰省し就農。現在は、育成牛を含む母牛49頭、子牛32頭を飼養し、宮崎牛をはじめ全国のブランド牛になるような子牛を育てています。昨年は、年間41頭を出荷しました。

餌は、購入している濃厚飼料や稻わらのほか、地域に点在する水田や畑を含む約5haで、粗飼料を自給しています。耕作放棄地にならないよう、更に作ってほしいという要望もありますが、手が足りず応えられないのが現状です。

将来は、手伝いをしてくれている息子さんに、経営を引き継ぎたいと考えていますが、継承できる環境づくりが重要であると、日々考えながら取り組んでいます。

今後も和牛繁殖農家の安定した経営を継続させていくためには、担い手の確保や飼料自給率の向上など、様々な課題を一つ一つ解決していく必要があります。



国の事業を利用し建設した牛舎



黒木さん夫妻



自給粗飼料と購入した稻わら等を自分で裁断し配合する





拠点のうごき

「みどり戦略」に係る意見交換会

●12月11日 を開催しました。

宮崎県拠点において、生産者、加工・流通事業者及び消費者等の皆様と、「**有機農産物の利用拡大**」をテーマに意見交換を行いました。

環境にやさしい農産物の消費拡大に向け、加工・流通業者による取組を紹介いただいた後、有機農産物の学校給食導入等について活発な議論が行われました。

農林水産祭の内閣総理大臣賞を受賞

●12月17日 した(株)宮崎茶房を訪問しました。

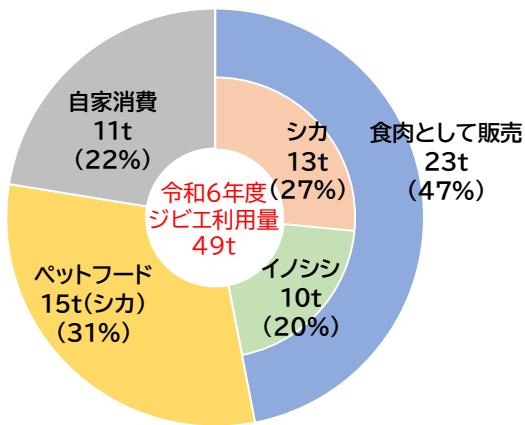
五ヶ瀬町の株式会社宮崎茶房は、平成13年に有機JAS認証を取得し、翌年には農林水産祭の天皇杯を受賞しています。本年度の農産・蚕糸部門では内閣総理大臣賞に選ばれ、親子2代にわたる受賞となりました。最近は茶摘みから加工の体験を希望する客が増えていることで、農泊連携や地域のワイナリーでの新たな加工品も検討し、中山間地域である五ヶ瀬町の更なる発展を模索し続けています。



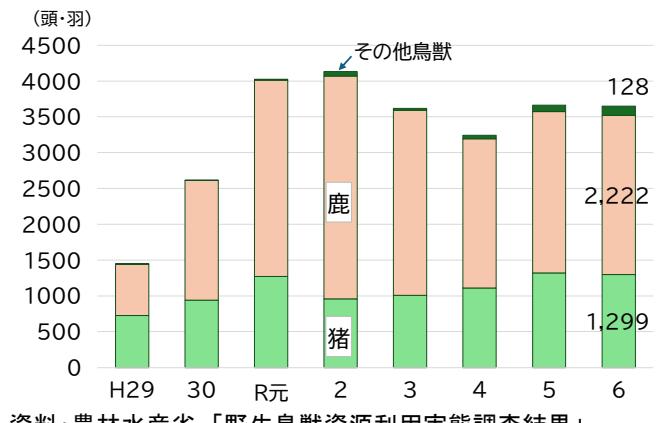
データで見る宮崎のジビエ!!

- 宮崎県内の食肉処理施設が令和6年度に処理した野生鳥獣のジビエ利用量は49tで、うち食肉として販売したものは、シカが13t、イノシシが10tとなっています。また、シカのペットフードへの利用は15tと全体の31%を占めています。
- 令和6年度の食肉処理施設の解体実績は、県全体で3,649頭・羽数(うちシカ2,222頭、イノシシ1,299頭)で、前年度に比べ0.3%減少しました。鳥獣種別ではシカが全体の約6割を占めています。

野生鳥獣のジビエ利用量（宮崎県）



食肉処理施設の解体実績（宮崎県）



資料：農林水産省「野生鳥獣資源利用実態調査結果」

●本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。

●宮崎県拠点 地方参事官室
TEL 0985-24-2365
〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17

編集後記

明けましておめでとうございます。

「午年」のスタートです。馬は俊敏さや勇気、行動力の象徴とされ、初詣で神様へお願ひしたことが力強く前進し実を結びそうです。

小生は三日坊主がバレないように内に秘めてスタートとしましたが、皆さんはどんなお願いをされましたか。(n)